

第11年度

実践！ 信頼性・品質技術 研究会

オンライン開催

経験豊富な講師・委員の指導
多様な業種の参加者メンバーとの議論や意見交換から…

問題解決の糸口を探り
スキルと人脈を得る！！

主催：一般財団法人 日本科学技術連盟

日科技連Webサイトに参加会社の声を掲載しています。ぜひご覧ください。

URL : <http://www.juse.or.jp/reliability/>

▶▶「実践!信頼性・品質技術研究会」参加のおすすめ◀◀

近年、科学技術の進歩や生産の海外拠点へのシフト、顧客ニーズの多様化や地球環境への配慮など、企業活動を取り巻く環境は大きく変化しています。また技術力向上が著しい新興国企業とのグローバル競争が激しくなる中で、共存/共栄を図る時代になっています。

品質・信頼性分野でも、機械・電気などの技術区分そのものが陳腐化する一方で、海外への生産委託や仕入れ先管理など品質管理のグローバル化が進み、QMS・ソフト品質・コンプライアンス・安全性の観点での品質保証の必要性が高まっています。

品質不具合の解決には、材料・部品レベルまで遡った原因究明と対策、システム・マネジメントレベルでの問題解決や再発防止を図ることが重要になり、企業の品質・信頼性業務に携わる技術者には、より広く、より深い知識が求められるようになってきました。

本研究会は、様々な業種や企業の現場で実際に業務を行っている技術者が集まり、品質や信頼性に関する諸問題について、最新の事例や課題をベースに議論を行う場です。それぞれの研究分科会で、グローバルに「ものづくり」を進める先端企業の経験と知識を持った運営委員と共に、各企業の状況に合わせた最適なソリューションを一緒に導き出していきます。

タイトルに「実践!」とある通り、一般論ではなく実際に皆さんが抱えている課題を取り上げるのが本研究会の最大の特徴です。通常のセミナーのように受け身で情報を収集するのではなく、Give & Takeの精神で積極的に議論に参加して、自分のスキルを向上させたいと思っている方のご参加を強くおすすめいたします。



実践!信頼性・品質技術研究会
運営小委員会 委員長

平本 抽

ソニー株式会社
R&Dセンター Tokyo Laboratory 28
General Manager

参加者の声

気付きを得るための貴重な場となっています。

進藤 文明 様

TOTO株式会社
環境建材事業部
環境建材品質保証部
環境建材品質推進グループ
グループリーダー



RQ研究会には2017年度から参加をしております。上司の代理で参加したことがきっかけです。初めて参加したとき、ボルトの緩みというテーマで様々な視点で意見交換をし、自らの知識の浅はかに気付かされたことを覚えております。

技術者であれば誰しも一度は解決困難な課題に直面したり、一応は課題解決したもののこの解決策で良かったのであろうか…という経験があると思います。その時このような課題は自社だけなのであろうか、他社ではどのように対応したのであろうかと思ったことはないでしょうか。課題は上位概念化すれば、共通なことも多く、他社から解決のヒントが得られることもあります。

RQ研究会は品質と信頼性に携わる技術者が約50社から集まっている研究会です。「実践」と名前がついているように、講演会のように受け身で聞くのではなく、自らが課題を持ち寄って議論や意見交換を行う場です。そのため、実際に自分が抱えている課題を参加者で議論することで解決につなげていく、また、参加者が抱えている課題の議論に加わることで自らの成長の糸口につなげていくことができます。

品質や信頼性の課題を抱えている皆様、是非一緒に議論や意見交換をしましょう。

参加者の声

社内の常識は非常識かも!?
他社事例からの気付きで改善を推進!

味岡 桃太郎 様

ソニーセミコンダクタソリューションズ株式会社
厚木テック
品質環境部門



私は本研究会の第4研究分科会に参加しており、QMS、リスクマネジメント、人材育成、再発防止手法、ナレッジ活用など、様々なテーマについて、各社メンバーと議論しながら情報を得る事が出来ています。

本研究会では、他社の様々な問題解決の事例を聞く事が出来ます。内容はかなり具体的に「目からウロコ」のヒントを得て社内環境に合わせてアレンジをしながら、実際に課題解決に貢献した事例も複数あります。

社内では過去からの経緯で常識だと思っていた考え方も実は他社と比べてみると、違う視点での色々な考え方や手法があると気付かされます。これは一つの会社の中では得る事が出来ない有益な知見だと思います。また、参加者は品証関係の組織の方も多く、「あるある」の話で盛り上がる事もあります。

会社は違っても、良い品質を作り込みたいという熱意は皆さん同じでどこの会社も同じ様な悩みに向かって様々なやり方で戦っている、という仲間意識を感じる事もあり、モチベーションアップにも繋がっています。

社内では様々な課題解決が必要ですが、自社の知見だけでなく他社の事例をヒントにする事で、早く、質の良いアウトプットを出す事が可能になります。品質改善に悩んでる皆さん、あなたが普段仕事をしている狭い世界から飛び出して視野を広げる事をオススメします!

参加されるみなさんが主役です!

参加者のみなさんから信頼性に関する諸問題を提起していただき、それを他の参加メンバーおよび研究会をサポートする信頼性専門技術者(運営委員)と議論する中で、問題解決の糸口を見出していきます。

各研究分科会は、“Give and Take”の精神に基づいて、相互に問題提起、事例発表を行い議論します。安心して議論を行うため、参加メンバー・運営委員は、本研究会内での議論の内容・知り得た情報等に関し、「守秘誓約」を交します。ここでしか聴けない“ホンネトーク”や“自身が抱える問題や課題の相談”ができるのは“本研究会ならではの”です。



活動内容



本研究会はメンバーおよび運営委員により構成されています。

活動年度は5月に始まり翌年3月に終了します。

本研究会のメンバーは、下記の研究会(例会)に参加して、研究活動を行います。



年間活動スケジュール



	開催日	開催形式	活動内容		
			10:00 ~ 12:00		13:00 ~ 16:00
2021年	5月14日(金)	オンライン	オリエンテーション	研究活動の紹介	研究分科会
	6月 4日(金)	オンライン	全体研究会	特別講演会	研究分科会
	9月17日(金)	オンライン	テーマ別分科会(ワークショップ)		研究分科会
	10月15日(金)	オンライン	全体研究会	特別講演会	研究分科会
	11月 5日(金)	オンライン	研究分科会		研究分科会
2022年	1月21日(金)	オンライン	研究分科会		研究分科会
	3月 4日(金)	オンライン ※状況によっては集合	テーマ別分科会(ワークショップ)		研究分科会

※都合により内容が変更になる場合があります。



全体研究会

メンバーと運営委員が一堂に会する「全体研究会」では、特別講演、質疑応答を通じてメンバー相互の啓発、交流を図ります。

一般参加可能!! 特別講演だけの参加も可能です!!

「特別講演」は、研究会メンバー以外の方でもご参加いただけます。(有料)
詳細は随時ホームページで公表します。

2 研究分科会

※都合により内容が変更になる場合がございます。

「研究分科会」は、本研究会活動の中心であり、参加メンバーが主役で開催月の7回全ての間で実施します。

分科会の構成は、「メカ」や「エレキ」といった技術領域のボーダーレス化に伴い、「材料」や「マネジメント」、「システム」など、信頼性技術の原理・原則的な色合いの濃い構成にしています。

- 〔第1研究分科会〕 材料・部品解析分科会
- 〔第2研究分科会〕 部品・デバイス(電子部品)分科会
- 〔第3研究分科会〕 機器・システム分科会
- 〔第4研究分科会〕 品質保証分科会



研究分科会では、参加メンバーのみなさんが抱える様々な信頼性に関する諸問題について、事実やデータを交えて運営委員と共に議論します。問題を正確に把握し、具体的な改善策や解決方法を考えていくといった信頼性の実践的な展開を図るのが大目的です。

したがって、第1～第4の分類は、あくまで主として議論したいテーマであり、関連して改善したい内容に発展したり、一見脇道にそれたように思える議論を自由闊達に交わすことも、本分科会においては重要なことと考えています。

また、第4研究分科会は品質保証担当者、責任者が集い、QA・QCに関する情報交換が活発に行われています。

3 テーマ別分科会(講演・ワークショップ・チュートリアル)

「テーマ別分科会」は、「研究分科会」とは別の視点から選定した信頼性・品質保証テーマについてのワークショップです。

運営委員・メンバーから提案していただいた興味あるテーマの中から、3～5のテーマを設定し、希望の「テーマ別分科会」に参加します。通常の研究分科会と同じくメンバー参加型で、事例やデータを持ち寄って議論をします。自分の属している「研究分科会」以外の研究分科会メンバーや運営委員と、異なる側面から信頼性の諸問題を議論し、解決方法を考えていくことができ、見聞を大いに広めることができます。

●過去に実施したテーマ別分科会のテーマ

調達部品の良品解析による品質維持、デバイス実装技術と組み立て実装、ユーザー操作や使用に関する問題、品質保証とは何ぞや、腐食による諸問題(硫化を中心に)、ワイブル解析を正しく使うには一変なワイブル編一、信頼性試験の効率化、新規事業に対する品質保証の考え方 など



研究分科会・活動紹介



(敬称略、順不同 委員所属はP.7参照)

第1研究分科会 材料・部品解析分科会

主査 杉谷 全令 副主査 大西 久男 委員 平本 抽、木村 忠正、小原田 一真

本分科会では“材料・部品の解析技術”を切り口に、メンバーが持ち込むテーマの問題は何か、何を知りたいのか、最適な分析・解析手法とその原理、得られた情報をどう考え解釈するのか、を全員で共有し、検討します。

分科会初回にはメンバーの持つ課題や疑問、要望、意見を基に各回にテーマを割り付けます。以降の分科会では回毎のテーマに関連した課題や事例、質問などのテーマを持ち寄り共有し検討します。例えば、不具合事例を前に皆さんはどんなストーリー（仮説）を描き、どんな分析（検証）を選択して、その結果をどのように考察（解析）し伝えようとしていますか。先例を学び、異なる視点での議論を通して、より多くの解析の道筋を持つことができます。

故障モードや劣化メカニズムの解析を主軸に、部品や材料に落とし込んだ分析や評価の技術に加え、知見や経験の展開や伝承についても取り上げます。以下に一例を示します。

①故障／劣化のモードやメカニズム

銅の腐食伸展や銀の硫化など金属材料の腐食、可塑剤の揮発や応力による破断など樹脂材料の劣化

②分析技術／計測技術

形態観察（SEM,X線CT）、表面分析（XPS,AES）、化学分析（FT-IR,GC/MS）、熱分析（DSC,TG-DTA,TMA）

③信頼性評価方法

温湿度試験、熱衝撃試験、疲労試験、混合ガス腐食試験、耐候（光）性試験、各種再現試験

④解析マネジメント

知見や経験の共有と展開、技術の認定や伝承、人材の育成、スキルマップ
また、今まさに解決したい問題など突発的な事例や質問も、都度議論の俎上に上げます。

本分科会メンバーが事例や質問を持ち寄り共に考える分科会、分科会の枠を超えたテーマ別分科会などで問題解決のヒントや有用な知見を得ることができます。1枚のスライドや1行の文章でも発信する積極的な姿勢により、相互に価値ある人の繋がりを得ることができます。皆様の御参加をお待ちしております。

第2研究分科会 部品・デバイス（電子部品）分科会

主査 山口 浩二 副主査 三井 直人 委員 伊藤 卓也、横川 慎二、瀬戸屋 孝、柏木 謙一

本分科会は、エレクトロニクス製品に使用される部品に焦点を当てた研究分科会です。

デバイス・電子機器・ユニット・材料の各メーカ、企業それぞれの立場から、本音で議論できるクロウズドでユニークな分科会です。

運営委員は、国内デバイスメーカ、電子機器メーカの品質・信頼性について豊富な経験を持った方々が担当し、参加されるメンバーは、設計・技術・生産・購買・品質保証・品質管理を実践している技術者の方々で構成されています。

取り扱うテーマは、「**部品・デバイスの品質・信頼性技術全般**」です。

①定例テーマ討論

初回到に討論したいテーマを発言いただき、回ごとの主テーマを定めます。2回目以降は、そのテーマに従って、自社での取り組みや事例などを発表し合う形式で討論を進めさせていただきます。内容によって、本分科会で十分に討論がしきれない場合は、テーマ別分科会や他分科会との合同討論の実施などで、柔軟に対応させていただきます、幅広い討論を行います。

②緊急テーマ討論

直面している電子機器や電子部品で起こっている品質・信頼性の具体的な問題を持ち寄り、幅広い知見に基づいた多角的な議論を行うことで、報告書に明記されることのない真の原因や、その解釈、波及性などを検討します。

事前に課題を分科会のメーリングリストで発信いただければ、参加メンバーが参考情報を持ち寄り、活発な議論が行われます。

③討論テーマのご紹介

昨年度、様々な議論を行いました、そのキーワードの一例をご紹介します。

- 各種部品固有の品質・信頼性問題
- 認定制度・生産終了品の対応方法・海外部品の採用と諸問題
- 品質とコストのバランス
- 信頼性試験・加速試験・ワイブルの正しい使い方

研究会は、参加いただくメンバー皆様が主役です。議論内容を持ち寄ることによって、研究会を通じて相互理解を深め、多様な知見から問題解決力を身につけていきましょう。

第3研究分科会 機器・システム分科会

主査 岩下 健児 副主査 勝田 信 委員 原島 瑞靖

本分科会は、優良なシステム製品をお客様に提供するために日々奮闘する機器システムメーカーのエンジニアが集い、日常の疑問点や新たな視点を見出す技術的活動です。

そもそも、製品はある種の集合体ですので、品質・信頼性の高い部品・材料を使えば品質・信頼性が確保されるとは限りません。一方で、品質・信頼性が並な部品・材料からでも、高信頼性を有したシステムは構築可能です。例えば、保全が定期的に行われるシステムにおいては、先端半導体部品よりも、旧式リレーを使う方が高アベイラビリティを実現できる分野もあります。部品の信頼性の総和を超える信頼性を達成し、巨大システムであっても、重大事故を起こさないように信頼性を作りこむことが、システムの信頼性技術者の腕の見せ所と言えるでしょう。

ここでポイントとなるのが、「対象となるシステムをどのように捉えるか」ですが、当分科会では、各種電子機器・メカトロニクス製品・住宅機器・鉄道などのエンジニアが、業界をまたがり横断的に論議します。また、それらの議論を通して、多岐にわたる分野やそれぞれの業界の知見に触れることは、参加されるメンバーの気づきとなり、メンバーの課題解決の一助となることでしょう。

論議内容としては、特異なテーマがあるわけではなく、再発防止/未然防止、評価/試験について、データ収集の仕方や解析のやり方などモノづくりにおける皆さんが日常的に抱える課題ですが、それらを製品にとどまらず製品を取り巻く上位システムとの相関まで視野に入れて論議します。さらに、今年度は社会インフラまで視野を広げたいと考えております。

このようなシステム視点で昨年度取り上げた内容ですが、

埃と信頼性

無線機器からの電波障害

のような製品を取り巻く物理化学電磁環境までもシステムの一部とみなし、自社製品との関わりの論議を行ったり、

ウェアラブル端末(スマートグラス)現場支援どうやっているか?

のような運用面まで含んだ論議をしてきました。

引き続き、製品と製品が物理的につながったシステムのみならず、物理的につながっていないシステムまで幅広く論議していきます。

第4研究分科会 品質保証分科会

主査 山下 恭幸 副主査 木村 功 委員 向井 剛、山森 英一

品質保証には、固有技術だけでなく品質管理手法・標準化に代表される管理技術も必要です。固有技術的側面が強い他分科会に比べ、本分科会では、品質保証に関する考え方や組織機能に関するテーマの他に品質管理・信頼性技術の手法等の管理技術的側面のテーマを討議しています。

本分科会メンバーは、コーポレート及び事業の品質保証部門に所属されている方が中心です。コーポレートの立場や事業部の立場から品質保証や品質改善をテーマに、各社の取り組み事例を紹介いただきながら情報共有し、各自が持っている課題の改善の方向性を持ち帰ってもらっています。

主な討議テーマは以下のとおりです。

①品質保証体制/品質保証活動

品質保証は製品開発から日常管理までの各段階で各部門が行う活動です。

如何に品質保証活動のPDCAを回しスパイラルアップを図るかをテーマに議論します。

品質保証体制(品質保証部門の組織体制や品質統制構造)、再発防止(監査・過去トラDB)、未然防止(DR・ゲート管理等の製品保証計画)、品質不正問題、市場品質情報処理(体制・システム)、

②品質管理・信頼性技術の手法

品質保証では欠かせない以下の手法について、上手な活用の仕方をテーマに議論します。

再発防止手法(なぜなぜ分析・FTA・過去トラDB等)、未然防止手法(設計・工程FMEA・DRBFM・SSM等)、統計的品質管理(SQC)、信頼性技術手法(ワイブル解析等)、リスク分析手法

③海外生産における品質管理と仕入れ先の各種変更に伴う品質問題

様々な製品が海外で生産され、かつ、自社生産以外の部品や材料を調達して、品質管理や品質保証を行っている中で、現場で起きている問題や課題をどう解決するか、を議論します。

④その他

技術伝承や人材不足というような視点からの品質人材育成や品質管理教育や新規事業、新規領域での品質保証の進め方等の議論をします。

本研究会のような異業種の品質保証部門の方達が集まる場は多くありません。

「品質保証とは何ぞや」を考え、明日の品質保証のありたい姿を一緒に議論しましょう。



過去の参加会社一覧(本研究会前身のRDT研究会の参加会社も含む)



過去に150社を超える企業に参加いただいています!

- | | | | |
|----------------------------------|-----------------------|---------------------|-----------------------|
| 愛三工業(株) | キーサイト・テクノロジー・ | (株)タムラ製作所 | (株)日立製作所 |
| アイシン精機(株) | インターナショナル(同) | TDK(株) | 情報・通信システム社 |
| アイシン・エイ・ダブリュ(株) | キヤノン(株) | (株)ディスコ | 福島アビオニクス(株) |
| 愛知時計電機(株) | 九州松下電器(株) | デンカ(株) | 富士ゼロックス(株) |
| (株)アイテス | グローブライト(株) | (株)デンソー | 富士ゼロックスエンジニアリング(株) |
| アイホン(株) | グローリー(株) | (株)デンソーウェーブ | (株)富士通研究所 |
| アイワ(株) | 京セラSLCテクノロジー(株) | (株)東海理化 | 富士電機(株) |
| 旭化成(株) | (株)ケアコム | 東光(株) | 富士電機アドバンステクノロジー(株) |
| 旭化成エレクトロニクス(株) | コニカミノルタ(株) | (株)東芝 | 富士電機システムズ(株) |
| 旭化成マイクロシステム(株) | (株)小松製作所 | 東芝デバイス&ストレージ(株) | プライムアースEVエナジー(株) |
| アジレント・テクノロジー(株) | コクヨ(株) | TOTO(株) | ブラザー工業(株) |
| アズビル(株) | コクヨS&T(株) | 東北日本電気(株) | 古河電気工業(株) |
| (株)アマダミヤチ | 三洋電機(株) | 東洋通信機(株) | 古野電気(株) |
| アンリツ(株) | (株)JVCケンウッド | (株)トクメック | (株)本田技術研究所 |
| アンリツネットワークス(株) | 新電元工業(株) | トステム(株) | 松下電器産業(株) |
| 上田日本無線(株) | 新日鐵住金ステンレス(株) | トヨタ自動車(株) | 松下電工(株) |
| 宇宙開発事業団 | 新日本無線(株) | (株)豊田自動織機 | 松下冷機(株) |
| エイブリック(株) | GEヘルスケア・ジャパン(株) | ナイルス部品(株) | 三菱ガス化学(株) |
| エスアイアイ・セミコンダクタ(株) | スタンレー電気(株) | 日産自動車(株) | 三菱重工業(株) |
| エスベック(株) | 住友電気工業(株) | 日産車体(株) | 三菱電機(株) |
| NTTエレクトロニクス(株) | 住友大阪セメント(株) | 日新電機(株) | (株)村田製作所 |
| (株)LSI Logic Japan Semiconductor | 住友ベークライト(株) | 日本アイ・ピー・エム(株) | (株)モリック |
| OLED青森(株) | セイコーインスツル(株) | 日本アビオニクス(株) | 森山工業(株) |
| 大阪ガス(株) | セイコーエプソン(株) | 日本特殊陶業(株) | 矢崎部品(株) |
| 大崎電気工業(株) | 積水化学工業(株) | 日本ガイシ(株) | 矢崎計器(株) |
| 沖エンジニアリング(株) | ソニー(株) | 日本電気(株) | (株)安川電機 |
| 沖電気工業(株) | ソニーイーエムシーエス(株) | 日本パナトロン(株) | (株)山武 |
| オムロン(株) | ソニーイメージングプロダクツ& | 日本プレジジョン・サーキット(株) | ヤマハ(株) |
| オムロンアミューズメント(株) | ソリューションズ(株) | 日本モトローラ(株) | ヤマハ発動機(株) |
| オムロンセミコンダクターズ(株) | ソニーグローバルマニュファクチャリング | (株)日本冷凍空調工業会 | ヤマハマリン(株) |
| オムロンヘルスケア(株) | &オペレーションズ(株) | (株)ノーリツ | ヤマハモーターエレクトロニクス(株) |
| オリンパス(株) | ソニーセミコンダクタソリューションズ(株) | (株)ハイオス | ヤンマー(株) |
| 鹿島建設(株) | 太陽誘電(株) | ハリソン東芝ライティング(株) | (株)ヨコオ |
| (株)金沢村田製作所 | タカラスタンダード(株) | パナソニック(株) | 横河電機(株) |
| (株)カネカ | 館山デバイス(株) | パナソニックコミュニケーションズ(株) | Lattice Semiconductor |
| カヤバ工業(株) | ダイキン工業(株) | パナソニック電工(株) | (株)リコー |
| マレリ(株) | ダイキン電子部品(株) | パナソニック電工施設照明(株) | (株)ルネサス小平ケミコン |
| 関西電力(株) | ダイニチ工業(株) | (株)日立小平ケミコン | (株)ルネサステクノロジ |
| 菊水化学工業(株) | (株)ダスキン | (株)日立製作所 | ローム(株) |

※会社名は参加当時の社名を掲載
(2021年3月現在)



第11年度運営委員(順不同・敬称略)



所属は2020年3月1日現在

役割	分科会	委員名	所属組織名
委員長	第1	平本 抽	ソニー株式会社
副委員長	第2	主 査 山口 浩二	富士電機株式会社
副委員長	第3	原島 瑞靖	富士ゼロックス株式会社
	第1	主 査 杉谷 全令	オムロン株式会社
	第1	副主査 大西 久男	大阪ガス株式会社
	第1	木村 忠正	電気通信大学名誉教授
	第2	副主査 三井 直人	三菱電機株式会社
	第2	瀬戸屋 孝	東芝デバイス&ストレージ株式会社
	第2	伊藤 卓也	株式会社タムラ製作所
	第2	横川 慎二	電気通信大学
	第2	柏木 謙一	日産自動車株式会社
	第3	主 査 岩下 健児	株式会社エンビジョンAESCジャパン
	第3	副主査 勝田 信	日本信号株式会社
	第4	主 査 山下 恭幸	ヤマハ発動機株式会社
	第4	副主査 木村 功	TOTO株式会社
	第4	向井 剛	三菱重工業株式会社
	第4	山森 英一	株式会社東芝



本研究会を支える委員の皆様です。信頼性・品質保証に関わるスペシャリスト集団であり、貴重な最新情報の発信、的確なアドバイスを、ファシリテートを行います。

参加要領

◆活動期間◆ 2021年5月～2022年3月

◆開催日程
(年7回)

回数	開催日	回数	開催日
第1回例会	2021年 5月14日(金)	第5回例会	2021年11月 5日(金)
第2回例会	6月 4日(金)	第6回例会	2022年 1月21日(金)
第3回例会	9月17日(金)	第7回例会	3月 4日(金)
第4回例会	10月15日(金)		

◆開催形態◆ オンライン

※状況によっては集合(日科技連・東高円寺ビル)での開催となる場合がございます。

◆会 費◆

一般・会員ともに 121,000円(税込) / 1名

2020年度(10RQ)研究会からの継続参加者 110,000円(税込) / 1名

研究会メンバー特別特典 シンポジウムへのご優待券を進呈!

2021年6月29日(火)～30日(水)に開催する「信頼性・保索性・安全性シンポジウム」へのご優待
参加費 41,800円(税込 / 1名)のところ → 特別価格 19,800円(税込 / 1名)

◆申込方法◆

参加申込書に必要事項をご記入のうえ、E-mailまたはFAXで下記宛にお申込みください。

一般財団法人日本科学技術連盟 セミナー受付

TEL: 03-5378-1222 FAX: 03-5378-1227 E-mail: regist@juse.or.jp

研究会お申込みに関するキャンセルの取扱いとお願い

研究会にお申込み後、ご本人の都合が悪くなった場合には、原則として代わりの方のご参加をお願いします。また、止むを得ない事由により、お客様の都合でキャンセルされる場合にはE-mailまたはFAXにて研究会第1回例会ご参加の前に連絡をお願いいたします。その際、連絡いただきました日にちにより、次のキャンセル料をご負担いただきます。

- 【キャンセル料】・研究会第1回例会開催日の7～6営業日前のキャンセル:参加費の20%
- ・研究会第1回例会開催日の5～4営業日前のキャンセル:参加費の50%
- ・研究会第1回例会開催日の3営業日前、または、テキスト、講義補助資料等の資料を郵送後からのキャンセルまたは事前のご連絡がなかった場合:参加費の100%

※○営業日前とは、土日祝祭日・日科技連休業日を除いた日数のことです。

※開催通知と請求書は、研究会開催の約1ヵ月～3週間前にご送付いたします。

※活動期間の途中から参加を希望される方は、下記RQ研究会担当までご連絡ください。

◆内容についてのお問合せ◆

最新情報は日科技連ホームページをご覧ください。

<http://www.juse.or.jp/reliability/>

一般財団法人日本科学技術連盟 品質経営推進センター RQ研究会担当

TEL: 03-5378-9850 FAX: 03-5378-9842 E-mail: re-group@juse.or.jp

第11年度「実践！信頼性・品質技術研究会」参加申込書

●参加者 ※希望分科会は必ずご記入ください(登録後の変更可)。前年度から継続参加される方は□に✓印を付し、所属分科会を記入してください。

記入不要	希望分科会	参加者名(ふりがな)	所属・役職・E-mail
	第 分科会		所属・役職:
	継続 <input type="checkbox"/> 前年度は 第 分科会所属		E-mail:

●連絡担当者(お申込み受理後「開催通知」をお送りする方)

会社名		事業所	
所 属 役 職		担当者	
所在地	〒	電 話	
E-mail		F A X	
参加費	研 究 会	一般・会員ともに 121,000円(税込) × 名 = 円	賛助会員 番 号
		継続メンバー 110,000円(税込) × 名 = 円	

※お支払いにつきましては、お申込み受理後、請求書と開催通知を併せてお送りいたしますので、請求書発行後2ヵ月以内にお支払いください。

※ご記入いただきました企業・組織及び個人情報に関しましては、研究会の運営、参加申込み受付処理ならびに日科技連からの事業情報の送付のために使用させていただきます。